

くろだ奈々市議の市議会一般質問 傍聴報告

令和7年12月11日に開催されました市議会定例会において、くろだ奈々市議による一般質問が行われ、不登校児童生徒に対する初期支援および家族支援の重要性について取り上げられました。

当法人としても関連性の高い内容であるため、下記のとおり傍聴報告を申し上げます。

■ 1. 質問の主旨

くろだ議員は、不登校の初期段階、とりわけ小学校において不登校または不登校傾向が認められる段階での適切な支援が、その後の中学校段階における不登校の発生や長期化を抑制し得ることを指摘されました。

その上で、一人ひとりの児童生徒に応じた効果的な支援を行うためには、背景にある要因や家庭における生活状況、心身の健康状態等を正確に把握する必要があると述べられました。

しかし、学校が把握できるのは主として学校内での様子や学業面であり、生活リズム、心理状態、家庭内の環境など、学校外の要素を適切に把握することは教職員の業務範囲を超える場合が多い点を明確にされました。

このような現状を踏まえ、議員は家庭に直接支援を届けるアウトリーチ支援の必要性を取り上げ、特に訪問看護師による家庭への伴走支援の有効性を示されました。

■ 2. 教育委員会の答弁

教育委員会からは、以下の趣旨の答弁が示されました。

- 訪問看護師による家庭支援は、不登校の長期化やひきこもり化を防ぎ、社会参加の可能性を高めるうえで有益な支援であると認識していること。
- 不登校児童生徒数が増加する現状において、学校だけで完結する支援には限界があり、地域の幅広い関係機関と連携し、早期かつ継続的な支援を行うことが必要不可欠であるとの認識を示したこと。
- 現時点で具体的な事業計画はないものの、議員が紹介した団体を含め、地域の不登校支援団体との連携を進めたい意向を有していること。

これらの答弁により、行政としても学校単独での対応に限界があることを公式に認め、関係機関との連携の重要性を明確にした点は大きな意義があると考えられます。

■ 3. 所感

今回の一般質問は、不登校支援が教育分野のみならず、福祉・医療・地域支援を含めた総合的な体制の構築を必要とすることを、議会という公的な場において明確にした点で重要性が高いと感じました。

特に、家庭へのアウトリーチや訪問看護による伴走支援が、今後の地域における支援モデルとして位置づけられる可能性が示されたことは、当法人の支援とも方向性を共有するものです。

さらに、行政側が「学校だけでは対応しきれない領域」を正式に認め、他機関との連携の必要性を答弁として示した点は、これまで現場で感じていた課題を制度的に裏付ける大きな前進といえます。

こうした議論が公的場面で可視化されたことは、地域全体の意識を変えていくうえでも大きな意義があります。

当法人としても、子どもおよびその家族が孤立することなく、早期から切れ目のない支援を受けられる体制づくりに向けて、引き続き関係機関と連携・協働しながら取り組んでいく次第です。

※ いずれは、国と宮崎市の不登校支援・連携図に訪問看護師が記載されることを願っているところです。

その為の、今回のくろだ市議の議会質問が大きな一歩になったと思っています。

以下に国と宮崎市の不登校支援・連携図を記載します。

国と宮崎市の不登校支援・連携図

